

放射線診療を受ける患者さんへ

はじめに

現在の医療において、CT検査、核医学検査、血管撮影検査など放射線を用いた画像診断は病気を発見し、病気の状態を知り、治療に必要な情報を得るために必要で有効な手段となっています。

放射線検査の必要性

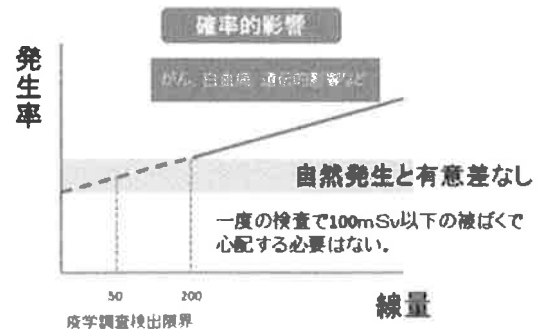
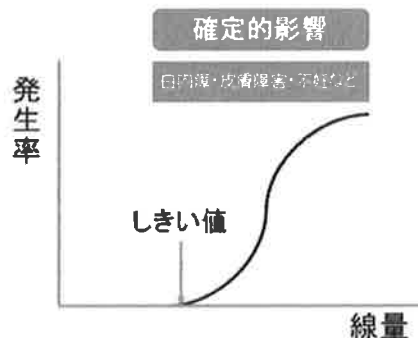
患者さんには、大きな利益を得ることができる一方で、放射線を使用するため被ばくを伴う検査となります。当院では、患者さんの利益が十分に大きいと判断された場合に、患者さんと話し合い、検査を行っています。



放射線の人体への影響

人体への影響には、確定的影響と確率的影響があります。

「確定的影響」には、基準の線量(しきい値)を超えると人体に起こる影響で、脱毛、皮膚の紅斑、出血・白血球減少、不妊、白内障などがあります。

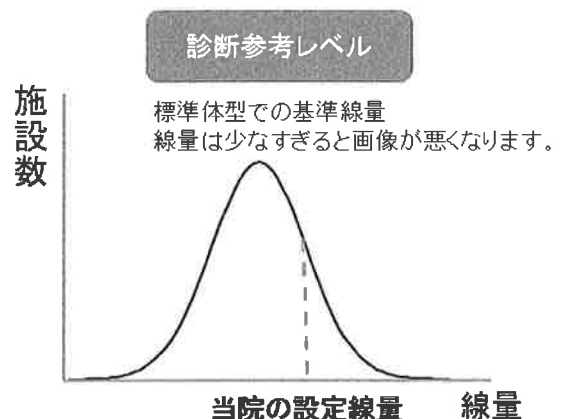


「確率的影響」には、

線量が多くなると発生する確率が増える影響で、がん、白血病、寿命短縮、遺伝的影響などがありますが、少ない線量では、疫学的にがんなどの危険性は、生活習慣や個人の資質による発生との区別はつきません。

線量管理

当院では、日本人の体型に合わせた「診断参考レベル」に準拠した線量設定を行っています。設定線量は、多すぎてももちろんいけません、一方で少なすぎる線量では診断画像の質が悪くなり正しい診断ができなくなります。当院では、「日本の診断参考レベル」を用い、適切な線量設定を行い、常に監視できるシステムを導入し運用しています。



検査依頼医 (サイン)